ほんりゅう 尾北

No.266
2021・4
■発　行■
尾北教職員労働組合
■責任者■
小山晃範（楽田小）

子どもが輝き 教職員が健康に働ける学校を

校長会との懇談会

丹葉小中校長会と尾北教労との懇談会が、2月19日に行われました。学校現場におけるさまざまな課題がある中ですが、これまで確認してきた次の4つの立場を大切にしようと話し合われました。

○子どもの願いや心の痛みを真正面から受けとめる学校をつくる。
○血の通った働きやすい職場をつくる。
○保護者や地域としっかり手をつなぐ。
○教育という専門性と崇高な使命にふさわしい教員としての身分を保障する。

以下に、「尾北教労からの提言と要請」をもとにした懇談会の内容の要旨を紹介します。
（組は組合の略、校は校長会の略）

コロナ禍での学校生活

組…コロナ禍での学校生活は、何よりも「子どもたちの心と体」を第一に考えていくことが必要ではないか。また、多くの教職員が、検温や消毒作業、密を避けての授業などで、疲れやストレスを抱えている。あたたかい学級づくりや無理のない学習指導を心がけ、子どもと教職員がゆとりをもって学校生活を送れるようにすることが大切ではないか。

校…あたたかい学校づくりに心がけ、子どもの心や体、そして、教職員の健康を第一に考えていきたい。朝の検温などの時間外勤務については、勤務時間の割り振りで対応していく。また、授業時数については、結果的に標準時数を下回っても問題はなく、時数よりも子どもや教職員に負担をかけないことを大切にしていきたい。宿題やテストなどの課題についても、子どもに負担をかけないようにしていきたい。

組…学校での教育活動は、「リスクの低い活動から徐々に実施する」「リスクがある状況でも、実施方法を工夫してリスクを回避する」など、感染レベルを見ながら、徐々に活動を再開していくことが必要ではないか。また、子どもどうしの「学び合い」も、授業形態を工夫しながら取り組むことが大切ではないか。

校…そのように考えている。「学び合い」については、横並びで小声で教え合うなど、工夫して取り組んでいきたい。部活動については、練習方法を工夫して活動している。

組…オンラインによる家庭学習については、各家庭の実情による違いから、教育格差を生む恐れがあるので、慎重に対応する必要があるのではないか。

校…GIGAスクール構想によるタブレット配付が進みつつあるが、オンラインによる家庭学習は、家庭での環境整備が整わないので慎重に進めていきたい。また、人権への配慮やプライバシーの保護といった観点も大切にしていきたい。

★「尾北教労からの提言と要請」の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。
（「尾北教労」で検索）

小学校での教科・英語

組…小学校では、子どもたちが英語嫌いにならないようにすることが重要であり、マニュアル通りに進めたり、教え込んだりするのではなく、楽しく分かる授業を創造していくことが大切ではないか。そのためには、より専門性が求められ、専科教員の配置が必要不可欠だと考えている。全小学校への英語専科教員の配置やALTの増員など、必要な条件整備について関係機関に働きかけるとともに、担任のみで行う際の負担軽減を図ることが大切ではないか。

校…楽しくわかる授業ができるようにしていきたい。専科教員についてはさらなる加配を県教委に働きかけていきたい。担任の負担についても少なくなるよう検討していきたい。

組…英語の読み書きの学習は、小学生の発達段階では大きな困難をともなうので、無理をしないように進めることが必要ではないか。英語の宿題やテストなどの課題で、子どもに大きな負担をかけないようにすることが大切ではないか。

校…学習内容については、音声に十分慣れ親しむことを大事にしていきたい。子どもたちが学習していく際に生じる困難さを受けとめながら進めていきたい。

組…授業時数の確保については、現在の日課の中で無理なくできる工夫をし、夏休みや土曜日などに行うといった、新たな負担にならないようにすることが必要ではないか。

校…授業時数の確保については、過度の負担にならないよう、日課を工夫していきたい。

全国学力テスト

組…全国学力テストは、あくまでも「学力の特定の一部分」を測定するものであり、市町村別・学校別の成績公表による競争や過去問題練習などのテスト対策で、学びがゆがめられたり、学校現場が振り回されたりしないようにすることが大切だと考えるがどうか。

校…調査は、児童生徒の意欲を高めたり、授業を改善するために実施されている。学力調査で測れるのは学力の一部であり、競争やテスト対策はよくない。誤解を与える結果公表（市町村別・学校別の結果公表）をしないよう、校長会として要請している。

組…文科省は、学力調査・質問紙調査のすべてをコンピュータ上で行う方式（CBT化）に変える方針を示している。ただし、CBT化には、

子どもたちがコンピュータに慣れていないと、力を発揮することができず、学力を正確に測れないなどの課題がある。

また、昨年度実施された中学校英語「話すこと」調査は、音声データの欠損で成績がつけられないなどの問題により、学力把握に役立たなかった。CBT化については、導入するかどうかを含めて、抜本的に見直すことが必要であると考えるがどうか。

校…コンピュータを使ってやり始めたらできなかったということになってはいけない。GIGAスクール構想でタブレットが導入されたが、児童生徒が主体的に学ぶことができるように活用していくことが大切である。

CBT化については、中学校英語「話すこと」調査で、録音する方式しか経験していない。どのような調査となるか不確定なので、今後も研究していきたい。

多忙化解消と働きやすい職場づくり

組…小学校全学年の35人学級が決まったが、さらに、中学校での早期実現と、専科教員や支援員の増員を関係機関に働きかけていただきたい。

校…段階的に35人学級になっていくが、これは、多忙化解消の観点からも有効である。校長会としても、さらなる少人数学級実現に向けて働きかけていきたい。

組…今年度、コロナ感染症予防対策として、学校行事等の中止・縮小・練習時間短縮など、抜本的な見直しを図ったが、来年度も、コロナ対策としてだけでなく多忙化解消の観点からも見直しを継続すべきと考えるがどうか。

校…コロナ感染症予防対策として、安全を最優先に考え、「絶対にやること」「できればやること」「やれないこと」に分けて取り組んできた。コロナ後であっても、多忙化解消の観点から、見直しを継続していきたい。

組…多忙化解消の手立てとして、学級担任の持ち時間数軽減に向けて改善を進めていただきたい。当面、小学校25時間以内、中学校20時間以内を目指してほしい。

校…小学校では、TTを組むと難しい面もあるが、25時間以内を達成できているところもある。中学校では、おおむねクリアしていると認識している。

組…愛教労や尾北教労には、毎年のように、パワハラの訴えや相談が寄せられている。悩みや問題を抱えたまま、言い出せない教職員もいる。一人一人の状況や心情に配慮して、誰もが安心して働きやすい職場となるよう、校長先生にはリーダーシップを発揮していただきたい。

校…どの先生にとっても働きやすい職場でなくてはならない。セクハラ・パワハラには十分注意を払っている。

組…職員が風邪などの病気やけがで休む際には、本人に療養休暇が取れることを伝え、次の内容を周知していただきたい。

①療養休暇は、1日や1時間単位で取れること。

②ボーナスは30日未満、給与は40日未満なら、その処遇には影響がないこと。

③1週間以内の休暇であれば、特に診断書は必要ないこと。

校…療養休暇がきちんととれるように、各学校でしっかり周知していきたい。

組…気持ちよく働くことができる職場づくりに向け、管理職がリーダーシップを発揮し、諸問題に対して担任一人任せにしないで、職員全体でサポートする体制づくりを図っていただきたい。

校…働きやすく明るい職場づくりをしていきたい。特に、担任は大変なので、一人で抱え込まないようコミュニケーションを大切に、気軽に相談できる風通しのよい職場づくりをしていきたい。

組…育休明けの異動については、数年前から、事情に応じて1年猶予されるようになったことを、全ての学校で周知していただきたい。

校…育休明けの異動であっても、6年あるいは10年が原則である。特殊な事情によって、1年間、現任校に留められる場合もある。必ず留められる訳ではないが、相談してほしい。

組…休暇処理簿等の帳簿は、個人別ファイルにしてある学校が多くなったが、依然、全員分を1冊に綴じている学校もある。個人情報保護の観点から、個人別ファイルにしていただきたい。個人別ファイルであれば、そこに割振変更簿も入れて、使いやすくなる。

勤務時間の適正化

組…休憩時間が確実にとれるようにするとともに、やむを得ず休憩がとれなかったときは、適切な割り振りを行っていただきたい。

校…そのように対応していきたい。

組…休憩をとることができなかった際は、県教委からの依頼文書に則り、在校時間記録表を修正することを、職員に周知していただきたい。

また、在校時間の記録は、土日を含めた勤務実態を正確に把握し、公務災害や健康障害などに関して重要な客観的データとなるため、時間外勤務を少なく記録するような虚偽報告とならないようにしていただきたい。

校…県教委の依頼文書については、今後確認していきたい。在校時間の虚偽報告はあってはならない。職員の健康のためという意義を伝え、先生方に正確に記録する意識をもってもらうようにしたい。

組…在校時間記録の簡素化と正確な把握に向け、タイムカードやICカード等の客観的な記録方法を全ての学校で、非常勤職員を含めた全職員に導入していただきたい。

校…非常勤職員の在校時間は「勤務管理簿」で把握している。

組…時間外勤務の割り振りについて、朝の登校指導や夕方の休憩時間に及ぶ会議を行ったときなどは、まずは管理職が「割り振り対象の業務」と「割り振り日時数」をきちんと伝えていただきたい。そして、個人別の割振変更簿の使い方を周知し、活用していただきたい。

校…校長が必要と判断し命じた時間外業務は、割り振り対象となる。日時数を明らかにして伝えたい。

組…時間外勤務があったときは、年休と同じように、夕方の休憩時間の30分間を除いて、16時30分からさかのぼって割り振りをしていただきたい。

校…休憩時間に配慮して、弾力的に運用することは可能である。

組…休日勤務をなくしていただきたい。やむを得ず行う場合は、必要最小限としていただきたい。運動会や学習発表会などで休日に出勤を命じたときは、健康と福祉を害することとならないよう、日頃の時間外勤務の割り振りを行うことで、早めに勤務の拘束を解いていただきたい。

校…週休日はリフレッシュや健康のために大切である。やむを得ず勤務となる場合は、日頃の時間外勤務の割り振り変更などで、早めに勤務を解くことは可能である。

組…「1年単位の変形労働時間制」を導入しないよう関係機関に働きかけていただきたい。

校…現状では、校長会として一律に対応する方針はない。